

ひらいた門

見よ。わたしは、だれも閉じることのできない門を、あなたの前に開いておいた。なぜなら、あなたには少しばかりの力があって、わたしのことばを守り、わたしの名を否まなかったからである。 黙示録 3 : 8

VOL.03-03 NO.024 2011年3月

チャーチ・オブ・ゴッド

川崎南部キリスト教会

〒210-0025 川崎区下並木66

TEL&FAX 044-233-3648

Eメール：nanbu-kyokai@nifty.com

URL：<http://kawasaki-nanbu-kyokai.com>

「弱いときにこそ」

橋本幸夫

「わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現れるからである。」

(Ⅱコリント 12 : 9)

これはパウロが、自分を打ちのめそうとしている試練の中で、主に三度願った末に、主から与えられた答えです。この答えを受けてパウロは直ちに悟ります。〈自分が弱いということは、恥ずべきことではなくて、むしろ喜ぶべきことなのだ〉と。なぜなら、神の力は人間の弱さにおいて働くからで、その神によって、「私が弱いときこそ、私は強いからです」(Ⅱコリント 12 : 10) と言い切るのです。

物事がうまくいっている時、神を忘れてしまっている自分があります。そんな時、〈忘れていませんか〉とでも言うかのように、神は難しいことを送ってくださいます。自分がいかに弱く、無力で、神の恵みなしに、生きられないものであるかということをお考えさせようとするために。

こんな話があります。あるところに、奇

跡がいっぱい行われているという噂を聞いて一人の人が訪ねてきました。〈いったいどういう奇跡ですか〉と問うた時、その住民が言うのに〈あなた方のお国では神が人の意のままになることを奇跡と言うようですね。この国では、人が神の意のままになることを奇跡と呼んでいます〉。

私たちは自分に都合のよいことばかり願ひ、また、それを叶えることが神の仕事であるかのように考えがちです。病気を治して下さい。金持ちにして下さい。子どもをよい学校に入学させて下さい。この苦しみを取り去って下さい…。願うこと自体は決して悪いことではないが、その後にくししながら、みこころのままに〉とつけ加えることを忘れてはいないでしょうか。そして神は仰せられるのです。「わたしの恵みは、あなたに十分である」(Ⅱコリント 12 : 9) と。

神の愛というものは、人間の不幸、災難、苦しみから遠ざけることにあるのではなく、それらの試練に耐える力を与えてくださることにあります。

弱い時にこそ喜びましょう。神の力は人の弱さの中で働きます。